

3月30日号
2010
No.438
最終号

かわぐち



53年の歴史に幕...

閉町記念式典挙

3月30日、川口町生涯学習センターにおいて川口町閉町記念式典が挙行されました。当日は森新潟県副知事やふるさと友好都市の矢野狛江市長をはじめ、多くの来賓が見守る中行われました。閉町に先立ち、川口町長は「これまでの先人のご努力に感謝し、これからは長岡市の南の玄関口として、川口地域を盛り上げていきたい」とあいさつ。最後に岡村町長、古田島議長が町旗を閉納し、長岡市長に手渡しました。

町旗を受け取った長岡市長からは「川口地域住民と手を取り合い、長岡市のスローガンであります『前より前へ』を合言葉に、一歩一歩力強く進んでいきたい」と新生川口への期待と抱負を語りました。



田山 森山 鉄也 さん

昭和32年、川口村と田山村が合併し川口町になったとずっと思い込んでいた。今回の合併を機に調べてみると、合併は昭和29年であり当時は川口村であった。32年の町制施行により川口町となり、この年生まれは町と共に生きてきた。

昭和30年代から40年代は高度成長期に伴い、田山もどんどん便利になっていくのが子どもながらに感じた。テレビ、冷蔵庫、洗濯機、電話、そして一家に1台と車があるようになっていく。便利さと引き替えに困ったことも出てきた。人がどんどん村から離れていく。合併と共によくなるかと思えば、村からいろいろな物が無くなっていった。役場支所、診療所、山の相川集落、小高分校、田山中学校、そして最後のとどめは、この地震で小高集落、保育園、そしてシンボルの小学校までもが無くなった。

祖父が生前話していた事を思い出す。「世の中で一番困

ることは『人貧乏』だ」と。今、つくづくこの事を感じている。長男である私は家を継ぐものだと思うて育ってきたが、子ども達には村に残れと言えない自分がなんと情けないことか。こんな村に誰がしたと言っても仕方ない。今思えば、自分を含めみんなが便利になることを追い求め、生活を豊かにし楽をしたいという思いが今の田山をつくり上げた気がする。何か先人達の思いと違った方向に進んでいるのではないだろうか。

正直、この度の合併には気が進まなかった。しかし、決まった以上この田山が長岡市となり市民に親しまれる地区として発展するよう、またふるさと田山を見つめなおす機会になるよう、折り返しを過ぎた人生、微力ながらも努力していきたいと思う。50年後の田山があることを願って：

閉町に想いを寄せて...

昭和32年8月に町制施行により、人口10,191人、世帯数は1,525戸で川口町はスタートしました。これまで「川口町」として歩んできた53年間、様々な行事や出来事がありました。今回は、「川口町」と同じく昭和32年に誕生された方より、閉町に対し想いを寄せていただきました。



武道窪 阿部 広美 さん

この地に生まれ育ち、閉町は今とても寂しく感慨深い思いがあります。母校だった古い木造校舎の泉水小学校、川口中学校共に場所を移り、りっぱな新校舎になりました。泉水小学校におかれましては、正15年創立、平成20年3月23日に閉校式典が行われ82年の伝統ある歴史に幕が閉じられました。閉校式典の時は児童と共に、集まってくれた大勢の先生方初め、卒業生や地域の方々と一緒に大きな声で涙ながらに、泉水小学校最後の校歌を歌いました。自分だけでなく子供達も通学させて頂いた泉水小学校。今でも思い出は尽きません。掛け持ちで三教室走り回った学習参観、親子で一生懸命頑張ったグラウンドの草取り、スノーフェスティバル、マラソン大会、そして大運動会。色んな思い出が頭をよぎり感動で胸がいっぱいになりました。今は日々賑やかだった子供達の声や姿もなく、もの静かにひっそりとたたずんでいます。子供達の姿のない小学

校は、地域の人達にとっても本当に淋しく切ないものがあります。長い年月の間には多くの思い出や変わっていったものがあります。でも川口町の住民として大切にされて来た思いや失いたくない物、人との絆を忘れずに過ごして行きたいと思えます。同じ年月を過ごしてきた自然豊かで、あたたかい川口町。この地で家庭を持ち子供達を育て成長を見守ってききました。私の心の中でずっと大事に持ち続けた大切な故郷です。今年は豪雪で、町民の皆様本当に大変だったと思います。けれど日々太陽の光が暖かく感じられ、もうすぐ木々が芽吹き、野山の花が咲き誇り小鳥の飛びまわる、やさしい春が川口町に訪れます。大震災を乗り越えてきた頑張り屋の町民達です。これからも前向きな気持ちと行動で一歩一歩進んで行きたいと思えます。最後になりましたが、私は川口町民で良かったと思えます。心からありがとう。

閉町にあたって



第7代川口町長 岡村 譲

川口町の閉町にあたり、一言御挨拶を申し上げます。

「川口町」は、昭和32年8月の町制施行以来、52年8カ月にわたる歴史に幕を降ろし、3月30日をもって閉町いたします。

「我がふるさと川口町」は、明治・昭和と幾多の合併を重ね、その度に、熱い議論を繰り返し、不安を抱きながらも、振りかえることなく、未来への夢に向けてきた先人の努力により、今の「我がふるさと」が存在します。

この間、基礎自治体としての役割を担い、ここに住

む人々の生活の礎を築いてきた先人のご努力に対し、改めて、深く敬意を表しますとともに、あらゆる面で、ご支援いただいた近隣市町村、新潟県並びに県内市町村に厚く感謝申し上げます。

先人たちの努力により、水道・下水道の普及率は95%を超え、道路改良率も県内で上位に位置しております。

また、都市ガスの普及率は、県下第一位であり、良好な住環境が確保されております。

振り返れば、豪雪・豪雨・地すべり、さらには、平成16年の中越大震災など、幾多の災害を乗り越え、打ち

のめされることなく、その都度立ち上がり、復興してまいりました。その原動力は、ここに住む、住民皆さんの、「川口町を愛する気持ち」と、「地域の絆」に、ほかなりません。

そして、中越大震災において、この「川口町を愛する気持ち」と「地域の絆」を、「見守り」「励まし」「支援」していただいた、全国からの、温かいお気持ちは決して忘れることのできない「ことがら」でもあります。

川口町の閉町にあたり、町民を代表し深く感謝申し上げますのでございます。私たちは、新しい絆を結ぶために、明日、長岡市に

合併いたします。

時代の流れ、変化とともに、自治体に求められるものも大きく変化し、多様化・高度化する中で、長岡市への合併を選択したものでございました。

住民生活も、今後更に、多様化・広域化する一方で、「地域の個性」・「地域の活力」が大きく脚光を浴びる時代でもあります。

合併しても埋もれることなく、「きらりと輝くかわぐち」を目指して、「川口」の財産に磨きを掛けて、さらに発展させることができると確信しております。

川口の財産、それは、「清流魚野川」、「大河信濃川」に代表される自然、そして、この自然が育んだ「地形」と、「景観」、この地に湧き上がる「温泉」、先人が築いた「伝統」もまた財産です。そして、この地に住む「人」と「人と人との絆」であります。

政権与党が変わり国と地方の関係は対等、協力の関係に、地域のことは地域住民により進めていくという地域主権へと変わっていく中で長岡市との合併を迎え、将来にわたり川口地域が川口らしくあり続けるために、豊かな自然環境と豊富な地域資源を活用した、地域経済の活性化と、住民主体の自立した地域を作り上げる、各種の施策をより積極的に進めて行かなければならないところであります。

どうか、皆様方には、今後とも川口の振興発展のために、より一層のご理解とをいただき、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

合併により私たち町議会議員は全員が失職となりますが、今後は一長岡市民としてそれぞれの立場でより一層の健康にして安心、安



第35代川口町議会議長 古田島 祐豊

閉町にあたって

川口町閉町にあたり町議会を代表いたしました。一言お祝いの言葉を申し上げます。

川口町は昭和32年8月に、町村合併促進法により、それまでの川口村から現在の川口町として町制を施行し、以来53年間にわたり町と議会は車の両輪となりまして地域の振興発展に努力してきました。

この間、震度7を記録した未曾有の大震災より早5年を経過しましたが、当時の野宿や炊き出し、住民と行政、議会が一丸となって協力し合っただけでなく、復興にあたったことなど、今だ

鮮明に想い浮かぶのであります。さらに現在の岡村町政との結果を受け、将来を見据えて長岡市との合併に向けて鋭意努力してきたものであり、この厳しい状況を考えますときに川口町議会議員は一丸となりまして、議会自ら議員定数の削減に取り組むとともに、議員報酬の大幅削減によりまして、町行政当局と一体になり財政危機を乗り越えてきたものと確信しております。

さまざまな行財政改革の成果として町財政の健全化がなされると共に、町民の皆様からも公共料金値上げなど大変なご負担とご協力をいただきました。

川口温泉やホテル・サンローラの経営状況も改善するなど大きな成果が見られるところであります。その努力と成果を長岡市民からも認めていただきまして合併協議が進み、昨年10月29日の町議会臨時会におきましては、全10人の議会議員が全会一致で廃置分合議案を可決し、長岡市との合併を決定してきたところでございます。

今日の社会情勢を見ますと、本格的な少子高齢化社会の到来、経済環境の急速な変化、高度情報化、地域環境の保全などの課題が山積し、行政が果たすべき役割はより一層多様化し、高度化してきております。

政権与党が変わり国と地方の関係は対等、協力の関係に、地域のことは地域住民により進めていくという地域主権へと変わっていく中で長岡市との合併を迎え、将来にわたり川口地域が川口らしくあり続けるために、豊かな自然環境と豊富な地域資源を活用した、地域経済の活性化と、住民主体の自立した地域を作り上げる、各種の施策をより積極的に進めて行かなければならないところであります。

どうか、皆様方には、今後とも川口の振興発展のために、より一層のご理解とをいただき、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

合併により私たち町議会議員は全員が失職となりますが、今後は一長岡市民としてそれぞれの立場でより一層の健康にして安心、安

この間、震度7を記録した未曾有の大震災より早5年を経過しましたが、当時の野宿や炊き出し、住民と行政、議会が一丸となって協力し合っただけでなく、復興にあたったことなど、今だ

鮮明に想い浮かぶのであります。さらに現在の岡村町政との結果を受け、将来を見据えて長岡市との合併に向けて鋭意努力してきたものであり、この厳しい状況を考えますときに川口町議会議員は一丸となりまして、議会自ら議員定数の削減に取り組むとともに、議員報酬の大幅削減によりまして、町行政当局と一体になり財政危機を乗り越えてきたものと確信しております。

政権与党が変わり国と地方の関係は対等、協力の関係に、地域のことは地域住民により進めていくという地域主権へと変わっていく中で長岡市との合併を迎え、将来にわたり川口地域が川口らしくあり続けるために、豊かな自然環境と豊富な地域資源を活用した、地域経済の活性化と、住民主体の自立した地域を作り上げる、各種の施策をより積極的に進めて行かなければならないところであります。

どうか、皆様方には、今後とも川口の振興発展のために、より一層のご理解とをいただき、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

合併により私たち町議会議員は全員が失職となりますが、今後は一長岡市民としてそれぞれの立場でより一層の健康にして安心、安

この間、震度7を記録した未曾有の大震災より早5年を経過しましたが、当時の野宿や炊き出し、住民と行政、議会が一丸となって協力し合っただけでなく、復興にあたったことなど、今だ

これからは、長岡市の南の玄関口として、この川口地域を大いに盛り上げて参りたいと思います。

そのためには、ここに住む皆様が、「ここに住むことの価値観」を見出し、力をあわせて行くことが、なにより重要であります。「川口地域」として一つになって、新しい時代を切り開いて行くようではありませんか。

町旗は納められますが、これは、新たな「川口」へ向けての、私たちの決意でもあります。

最後に、今までご指導・ご鞭撻をいただいた、国・県はじめ、多くの自治体の皆様、さらには全国の皆様にも、重ねて感謝申し上げますとともに、町民各位のご健勝を祈念いたしまして、閉町のごあいさつといたします。



全な社会生活基盤づくりと、個性豊かにキラリ輝く川口地域づくりに尽力してまいります。

夢と希望をもって新しい町づくりにむけて、町民から合併して本当によかったと心から言ってもらえる努力をしていきたいと考えております。

おわりに、これまでご支援を賜りました国県の関係機関、団体の皆様、地域住民の皆様へ感謝申し上げます。皆様は心から祈念申し上げます。ご多幸を心から祈念申し上げます。ご多幸を心から祈念申し上げます。